

『ソク・サバーイ！ カンボジア・サッカー見聞録～牛の向
こうに未来が見える～』 Vol. 3

● J F Aサッカー 1級審判インストラクター 唐木田 徹



雨に煙るアンコール・ワットの尖塔

相変わらず雨季とはいえ、普段は暑い日が続いています。しかし、以前よりは暑さを感じません。気候に慣れたこともあります。カンボジアは3、4月が一番暑いので、やはり気温は下がり気味なのでしょう。

水没したオフィスも1週間くらいで復活しました。今更ながら気がついたのですが、このNTCのオフィスは入口方向を除いて、グ

ラウンドを囲む3辺が堀のようになっています。たぶん乾季には干上がるのですが、今は蓮の花が咲いています。その水が溢れて、グラウンド回りをもう一つの堀にしてしまうようです。今は水位がほぼ地面と同じくらいなので、ザーっと30分雨が来れば堀の完成です。なにしろ、この雨が短時間とはいえいわゆる集中豪雨のような雨ですから。そして、その堀にはよく見るとかなり大きな巻貝や魚がいます。普段の堀から溢れ出たのでしょうか。グラウンドを囲む道なのに、魚が泳いでいるのには笑ってしまいました。



雨季の様子



上の写真と同じ場所の6月頃

さて、今回はせっかくですからアンコール・ワットの写真を載せることにしました。というのも、後輩のJ2主審・山内宏志くんを見物に行ってきたからです。彼は雨（雷）男なので、雨季と言っても何日かに1度ザーッと降るだけだった雨が、彼の滞在中はずっと降っていました。おかげで、雨に煙る一味違ったアンコール・ワットの写真が撮れました。



山内宏志くん、颯爽と到着

アンコール・ワットのあるシェムリアップ市へは、バスで約5時間半。私たちが使った「メコンリムジン」は、日本のリムジンバスそのものです。シートクッションは「CR新海物語」（パチンコの）

でした。片道11\$、水と軽食のパン付きです。めちゃくちゃ高いバスです。他のバス（クメール人が乗るバス）は5～6\$ですから。アンコール・ワットやバイヨン（四面仏）、その周りのいくつかの遺跡を見て回りました。私は2回目だったので、今回はデバター（女神）をメインに写真を撮りました。遺跡ごとに表情に違いがあり、きちんとまとめてみたいところです。



現在お気に入りランク No.1 のデバター（バンテアイ・プレイ）

遺跡の出入り口には物売りの人たちでいっぱいです。主に子供です。目ざとい子は日本語のガイドブックを見てとると、すかさず「オ

ニイサ〜ン、トーキョー？オオサカ？カッコイイネェ〜」とピンポイントで声をかけてきます（夜の街ではありません）。「学校は？」と聞くと、「午後から行く」との答え。こちらは2部制（中には3部制）なので一概にうそとはいえませんが、本当に行っているかはわかりません。それでもスペイン語、イタリア語、英語が話せるというのは大したものです。将来それを生かせる仕事ができればいいけど、などと思いつつ一つマフラーを買いました。



お土産売りの女の子、「何歳なんだろう？」

※『ソク・サバーイ』とは、クメール語で「元気です」「元気ですか？」（正式にはソク・サバーイ・テー？）の意。